

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅡ講座 講師
氏名 Name	大塚 行誠
専門分野 Academic Field	言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ミャンマーおよび印緬国境地帯における少数言語の基礎調査
<p>平成30年度は、中級学習者向けのビルマ語教材の開発と並行し、ミャンマーとバングラデシュにおけるチン系少数言語の記述言語学的な研究とフィールド調査を行った。本研究の主な目的は、ミャンマーとその周辺地域において研究蓄積の乏しいチベット・ビルマ系の少数言語の基礎資料（語彙資料・音声資料・文法スケッチ）を蓄積することであり、言語学的な観点からクキ・チン系諸言語の文法現象について包括的な分析を行うことを目標としている。以下、研究調査活動と業績の詳細を3点に分けて報告する。</p> <p>[1] アショー・チン語の調査</p> <p>基盤研究 (B)「ビルマの危機言語に関する緊急調査研究」(研究課題番号：17H04523)の調査の一環として、2018年の8月20日から9月16日までの約一か月間、および2019年2月16日から2月23日までの約一週間ミャンマーのヤンゴン市においてアショー・チン語の調査を実施した。現在、基礎語彙集作成のための準備を進めている。</p> <p>[2] ボム語の調査</p> <p>若手研究 (B)「インド北東部におけるボム語の調査と文法記述」(研究課題番号：17K13442)の調査の一環として、2019年2月12日から2月16日までバングラデシュのダッカとチッタゴンを回り、ボム語をはじめ、マルマ語やキャン語などの少数言語を話す人々のコミュニティを訪問し、バングラデシュにおける少数言語の実態を学んだ。その後、2019年2月16日から2月23日まではミャンマーのヤンゴン市に移り、上記のアショー・チン語に関する調査と並行する形で、ミャンマー側のボム語の言語調査を行った。さらに、2019年3月12日から23日にかけても、ミャンマーにてボム語に関する追加の言語調査を行う。</p> <p>[3] 研究成果</p> <p>【研究ノート】 大塚行誠 (2019年掲載予定)「ラルテー語における動詞語幹の交替」『言語文化研究』45 大阪大学大学院言語文化研究科.</p> <p>【国際学会口頭発表】 OTSUKA, Kosei (2018) The structure of verb complexes in Asho Chin. The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics at Kyoto University. 2018年9月27日.</p>	